



新しき年を 迎えるにあたって

倉 橋 惣 三

根本考察が足りない。根本考察が足りないから、問題がいつでも枝葉のところを動いている。かなりいろいろのことが考えられ、試みられ、部分的に究明されるにもかかわらず、意極の決定はいつまでも残されている。——我國の幼稚園教育界は、こんなふうにして一年一年過ぎていくのではあるまいか。時の経過はなほどかずつの進歩を積み上げていくには相違ない。しかしその進歩は、あまりに気まぐれな、無秩序な、断片的な集積にすぎないものであって、そこに何等の系統的組織的進歩というものを見ない。思えばあまりに非学問的なことである。

思いつきは、時には非常に賢明な真理の発見者である。しかしまた、非常に危険な誘惑者である。思いつきは偶然の方で我々をその一点にひきつける。それだけに、全局の関係を忘れさせ、前後の関係を失わせる。

それはそれだ。しかし、それは全体の中のそれだ。拠のある基礎の上に位置すべきものでなければならぬ。思いつきはこの明白な事実を没却させるほどに我々の心を部分的に興奮させる。——我國の幼稚園教育界に、またしてもこの思いつきの多いことである。

○ 意味の分らない模倣や雷同や。おなじく意味のない反対や批難や。こんなことの繰り返しの中に我國の幼稚園教育界は、あまりに無意味に疲れている。風に吹きまわされて、ぐらぐらと東西南北をまわりつかれているのでなければ、たゞ無意味に風に逆って疲れている結果は、つまり、どっちもくだらないことに倦き倦きしてしまわざるを得まい。意味のないところに厭倦がある。根のないところに枯死がある。

○ 『分らない！』『分らない？』『我國の幼稚園界は、あまりに平気に、口癖のように『分らない』を繰り返している。一年たっても、三年たっても、五年たっても、おなじ『分らない』に立ち止まっている。中には、何がいかに分らないかをも知らずに、たゞ『分らない』でいる悲しい楽道家もある。それでいつになつて分つて来るであろうか。つまりは『分らない』が、ますます平気になるばかりかも知れない。

○ 分つているという。その多数は、『このごろ疑いがなくなつた』人である。或は、小さい枝葉の一局部に安住停立して、そこに、幼稚園教育問題の全部を懸け、また自分の全部を懸ける人であつたりする。これもひとつの悟りの開きかたかは知らぬ。しかし幼稚園教育を根本的に考えている人ではない。

○ 私の幼児教育に関する考えは三十年前も現在も根本的には變つていない。基本的真理は時代の変化にかかわらず真理である。